子どもの自主的な活動を支えるために

子どもの視点だからこそ見えるものを大事にしたい

松代地区社会福祉協議会
地域福祉ワーカー
北村玲子さん

豊栄地域活性化委員会の彼らが小学校のときに作った豊栄のお気に入りスポットの冊子を使い、世代間交流として子どもが豊栄をガイドする催しを開きました。彼らは地元の方でも知らないようなマニアックなクイズを作り豊栄の良さを案内しました。

それきっかけで、ある日、井出くんたちがマラソン大会の企画書とポスター案を持ってきました。最初は、すごいこと言ってきたなとびっくりすると同時に、正直実行は難しいと思いました。でも企画書もしっかりできていて彼らの本気さを感じました。

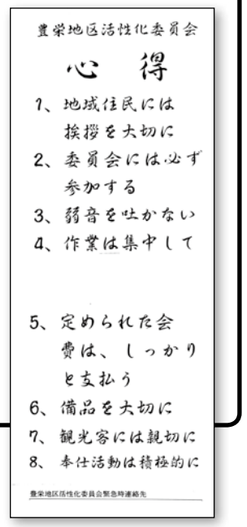
そこで社協が構成団体となっている住民自治協議会から区長会に協力を依頼しました。区長さんの賛同を得て、小中学の校長先生、郵便局の方、派出所の方、松代甲冑隊の方など、多くの地域の方に参加していただけることになりました。当初 20 ～ 30 人くらいの想定が、ボランティア入れて 130 人の規模になって地域の皆さんも驚いていました。

松代町には様々な活動団体があり、中学生も学校をとおしてボランティアを募集することが多く、駅での観光客への案内やお祭りに活性化委員会の彼らも関わっています。

委員長の井出くんは小さい時からおじいさんの田んぼや畑を手伝うのが好きで、おばあさんが福祉推進委員だった時には、チラシ作りを手伝っていたそうです。豊栄地区には祖父母と同居している家庭が多いので、地域の方が遠い存在ではない。相談に乗ってくれる身近な地域の方がいることは大きいと思います。

活性化委員会は彼らの「面白そう」がやりたくて始めた自主的な取り組みです。彼らの活動を地域の人に知ってもらおうと、社協だよりでも紹介しています。子どもの視点だからこそ見えるものがあり、「大好きな豊栄をより良くしていきたい」という純粋な想いを大事にし、地域のためにも彼らの役に立てたらと思います。

「子どもたち自らが主体となって計画・実施する活動」を応援するキリン福祉財団の助成金贈呈式（委員会事務所にて）



豊栄地区活性化委員会

心　得

1、地域住民には挨拶を大切に
2、委員会には必ず参加する
3、弱音を吐かない
4、作業は集中して
5、定められた会費は、しっかりと支払う
6、備品を大切に
7、親光客には親切に
8、本仕活動は積極的に

豊栄地区活性化委員会緊急時連絡先

自分たちで作成した
委員会の心得もあります

土俵から落ちないように支えることが大人の役割

五十里うどん麺味座
二本松 博さん

人のつながり、人との交流は地域福祉の基本だと思っています。世代間交流は大人が考えるべきのに、活性化委員会の彼らは素晴らしい取り組みをしています。子どもたちが自ら考えた取り組みを、大人はどう支えていったらいいのかを考えていかないといけないですね。

大人はとても慎重で、「来年はどうするんだ」「継続させていくためにはこうしないと」とよかれと思ってアドバイスをする方もいますが、相撲の取り方を教える必要はないと思います。子どもたちの自主的な取り組みを大人がやってしまってはいけない。土俵から落ちないように支えることが大人の役割だと思います。

活性化委員会の企画で
サラダうどんを共同開発

うどん店のメニューの裏に委員会を紹介
暮らしの困り事調査についても掲載

協力：豊栄地域活性化委員会、松代地区社会福祉協議会、五十里うどん麺味座

発行日：平成29年9月20日　発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ
〒380-0928 長野市若里7-1-7　TEL.026-226-1882　FAX.026-228-0130
E-mail　vcenter@nsyakyo.or.jp　　URL　http://www.nsyakyo.or.jp/

福祉の心
ふっころ

中学生ボランティア新聞 ふろく

僕らの力で地域を元気に！

＊本紙の特集事例をよりくわしく解説！ あわせてご活用ください。

先生方へ
やまびこだより
No.145
今号の特集から

長野市松代町豊栄地域の中学生有志が結成した 豊栄（とよさか）地域活性化委員会 ただいま活動中！

豊栄小学校の倉石校長先生と松代中学校の中澤校長先生も走ってくださいました。

子どもの部　宮下湊太くんに賞状とメダルを授与。

長野市立松代中学校の仲のよい同級生たちが、生まれ育った愛するふるさとを元気にしようと、豊栄地域活性化委員会を立ち上げました。奉仕活動やイベントなどを自ら企画・実行し、豊栄地域を活性化させようと、楽しく元気に活動中です。

事例の概要

中学生が地域を盛り上げるマラソン大会を企画

桜の花が沿道を彩る4月30日、豊栄（とよさか）地区皆神山（みなかみやま）春マラソン大会が開催されました。小中学生や親子、年配の方など80名近くのランナーが参加し、皆神山山頂まで勾配がきつい2.2kmのコースを駆け抜けました。

大会を企画したのは、長野市立松代中学校の中学生６名で活動している豊栄地域活性化委員会です。彼らは生まれ育った松代町豊栄地域を拠点として、地域の子どもガイドや清掃・雪かきボランティアなど様々な活動を実践しています。マラソン大会は地域の活性化と世代間交流、子どもの運動意識の向上と健全育成などを目的に企画。松代地区社会福祉協議会に企画書を持ち込み、準備段階からスタッフのアドバイスを受けながら、松代地区住民自治協議会や地域住民、ボランティアなど多くの人々の協力を得て大会を成功させました。

同級生二人と委員会を結成した委員長の井出昌輝くんは語ります。「自然の豊かな豊栄が大好きで、たくさんの人に豊栄の良さを知ってもらえるといいなと思って委員会をつくりました。マラソン大会は小学校の頃から企画を考えていました」。

若さと熱意が地域を動かした

井出くんらの「やってみたい」を実現にするためサポートをしているのが、松代地区社会福祉協議会の北村玲子さんです。井出くんらによるマラソン大会の提案を受けて、住民自治協議会の役員に企画をつなげ、協力をあおぎました。

「アイディアはもちろんのこと、彼らの熱意によって地域の方が動かされているのがすごいことです。豊栄を良くしようと思って活動していることを住民も知っているから、その姿が理解を得られたのではないかと思います」と北村さん。活動を知ってもらうことが大切と、活性化委員会の取り組みを社協だよりでも紹介しています。

井出くんらの取り組みに感激し、マラソン大会を支援した地元うどん店経営の二本松博さんは、活性化委員会の強力なサポーターです。お店横の一室を事務所として提供し、名物サラダうどんの開発にも協力しました。

北村さんも二本松さんも中学生だけではできないことを支え、あくまでも子どもたちの「自主性」を尊重しています。

中学生も地域の一員。子どもの視点だからこそ見えるものがあり、純粋に地域を見ています。普段はどんなことをして遊んでいるの？という質問に、「この取り組みが遊びになっているかも」と楽しそうに語る井出君。「楽しみながら地域をより良くしたい」という想いにまわりの大人たちがパワーをもらっています。

中学生の「面白そう」から始まった取り組みが、人と人をつなぎ地域を元気にしています。

直撃インタビュー

豊栄地域活性化委員会 井出委員長に聞きました

長野市立松代中学校
2年 井出昌輝くん

Q. 委員会をつくろうと思ったきっかけは？

小学６年生のときに授業で豊栄のガイドブックを作り、それをもとに、社協さん主催の世代間交流で豊栄の案内をすることになりました。下調べで豊栄の良いところをたくさん知り、その良さをもっと広めていきたいと思ったのがきっかけです。

みんなで秘密基地をつくるみたいに委員会を作り、自分たちでイベントも企画できたら面白いよねと、同級生２人に声をかけて、昨年の５月に委員会を発足しました。

Q. いつどんな活動をしているのですか？

休日、部活のない日に集まって活動しています。活動は自分たちで決めています。夏は公園や沿道などゴミや草の多そうなところを見つけて、ゴミ拾いと草取りをします。冬は雪かきや塩カルをまいています。

最初は、豊栄が元気になるようなイベントをしたかったんですが、いきなりは難しいので、まずは「誰でもできることはなんだろうと」考え、奉仕活動をすることにしました。それを今も継続して行っています。

冬の雪かき

Q. メンバーのそれぞれの役割は？

みんなで話し合って、こういう役割が必要だよねとそれぞれ係を決めました。高齢者が多いので福祉の係はあったほうがいいとか、安全係も。広報は地域の方にも委員会の取り組みを知ってもらうために作りました。

委員会のメンバーと担当係

井出昌輝くん　委員長 兼安全係
久保勇翔くん　副委員長 兼イベント企画
海沼大輔くん　会計書紀 兼奉仕活動企画
富田翔大くん　広報係　活性化通信を作成
中村慶一郎くん 福祉係（高齢者や子どもの企画）
井口友瑚くん　委員

事務所の掲示板で情報共有

豊栄地域活性化委員会通信

つながりマップ

豊栄は自然が豊かで、山や川が遊び場でした。秘密基地を作ってよく遊んでいました。

豊栄地域活性化委員会

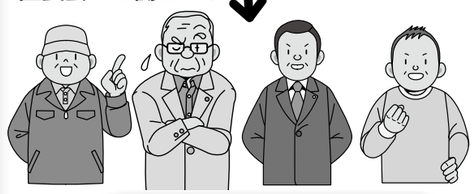
豊栄のために、大会を開きたい！

熱意が地域を動かした！

マラソン大会の企画を提案・相談

松代地区社会福祉協議会

区長会への働きかけ



松代地区住民自治協議会

うどん店の一室が委員会の活動拠点

委員会の事務所前で井出くん（中央）うどん店の二本松さん（左）、社協の北村さん（右）

趣旨に賛同した松代地区住民自治協議会やボランティア50人、飲食店が協力し、参加者や入賞者にメダルや賞状、うどんを贈りました。

皆神山春マラソン大会を開催

地域の人が運営ボランティア等で協力して下さいました

地元の企業さんが駐車場を貸してくれたり、小学校でテントや AED を借りました。公民館や住自協からも物品を借り、地域の人が全面協力してくれました。
家族には参加者への差し入れや、車の送迎などをしてもらいました。

マラソン大会について

Q. どうして企画したのですか？

豊栄でマラソン大会を開催できたらいいなと小学生のときから思っていました。桜の季節に皆神山のコースを走ってもらえれば、豊栄の自然の良さを知ってもらえるし、地域も盛り上がるのではないかと考えました。そして、企画書を作って子どもガイドでお世話になった社協の北村さんに相談しました。

Q. 大会を運営して大変だったことは？

当日はバタバタしてしまいました。名簿がなかったり、賞状に名前を書く筆ペンがなかったり、想定外のことがたくさん起きました。文句を言う参加者もいたし……。でもけが人もなく無事にできたのはよかったです。

公民館での反省会では、皆神山のコースを高齢者にとってはきついんじゃないかという声も。「誰もが楽しめる」って難しいです。また、看板が大きい方が良いとか意見が出たました。次回に生かしていきたいです。

Q. よかったことは？

予想以上に大勢の人が参加してくれて、豊栄地域以外の人や松代町外の人もいました。皆神山は地元の人でも走ったり歩いたりすることはないので、豊栄の魅力を感じてもらえたと思います。

ボランティアいただいた地域の方々も楽しんで大会を盛り上げようという気持ちがあり、僕らもいろんな方と話したり、みんなで一つのことをやる達成感も味わえてやってよかったです。

松代甲冑隊も応援

地元を中心に4～66歳のランナー 80人、が参加

まわりの反応

Q. 学校での反響は？

僕らの活動が市民新聞などの記事になって学校の壁に掲示されたときは、同級生から「これ本物？」とびっくりされました。「面白そうだからと始めただけで、こんなに大きな取り組みにするつもりはなかったんだけどな」と戸惑うメンバーもいます。活動を知って委員会に入ってくれる人がいればいいなと思います。

将来について

Q. これからどんな活動したいですか？

マラソンのほか、ウォーキング、星を見る会、皆神山に登る会など、やりたいイベントの企画案はたくさんあります。地域の方にアンケートしたら、室内系のレクが多く、今年は傘ゴルフをやろうと検討しています。

麺味座さんのメニュー表の裏に委員会の紹介をさせてもらい、その欄に暮らしの困りごと調査についても掲載しました。僕らにできることがあれば引き受けて、地域の困っている方の助けになれるといいなと思っています。

Q. 将来の展望を聞かせてください

いま委員を募集していますが、なかなか入会してくれる人がいないのが悩みです。想いを持った後輩がたくさん出てくるといい。でも、隣の地区同じような活動を始めようとしている同級生がいることは、励みになります。やっぱり、考えているだけじゃダメで、実行することが大切だと思っています。

高校に入って活動しなくなるのは嫌なので、これからも地域に関わって豊栄をよりよくしていきたいです。